

AGRI

アグリ

WORK

ワーク

POINT

ポイント



果樹生産センター 信方浩志郎

開花前の管理

近年、樹ごとの花のバラつきが目立ちます。表年と裏年の樹を判断し、樹の状態にあった管理を行ってください。花が多いと思われる樹では、隔年結果は正や高品質果栽培を目的に、摘蕾と摘花を早い時期から行いましょう。

葉面散布

花の充実のために、花芽が見える頃から開花まで尿素500倍を5〜7日おきに3回程度葉面散布しましょう。充実した子房を作ることで品質の良い果実生産につながります。

病害虫防除

そうか病は、新芽が開く頃から感染が始まります。発芽時期は地域や樹勢などで変わるため、園地をよく観察し新梢が1cm程度に伸長する頃を目安に防除してください。発病している枝葉は剪除し、園外に持ち出してください。

・デランフロアブル 1000倍 (30日3回)

冬期にマシン油乳剤を散布しなかった園地では、気温の上昇とともにミカンハダニの発生が予想されるため、マシン油乳剤と併せて、カイガラムシ類の防除薬剤としてアプロードフロアブルを混用して散布しましょう。

・マシン油乳剤 (97%) 100倍
・アプロードフロアブル 1000倍 (14日3回)

苗木の管理

3月に定植した苗木は初期生育が重要です。成木よりも土壌の乾燥に弱いので、晴天が続く場合はかん水を行いましょう。雑草抑制も含めて敷きわらの活用が有効です。発芽後はアブラムシやアゲハチョウ、ミカンハモグリガの被害を受けないように防除を徹底しましょう。